

2019年(令和元年)7月24日(水曜日)

ネパール地震の被災生徒ら

三島の川で草刈り体験



源兵衛川の草刈りをするネパールの子どもら。三島市南本町で

二〇一五年四月のネパール大地震で被災した首都カトマンズ市の学校に通う十三〜十四歳の生徒四人が、二十二日から四日間の日程で三島市内を訪れている。子どもたちは国際交流団体「ネパール・日本友好協会」(紅富士太鼓)(ともに山梨県大月市)による交流事業で今月十六〜三十日の日程で来日している。三島訪問は、ネパールの復興支援に取り組む三島市のNPO法人「グラウンドワーク三島」が、環境問題などについて学んでもらおうと子どもたちを毎年招いており、今回六度目となる。

二十日は、三島梅花藻の里や源兵衛川を訪問。源兵衛川では、草刈りをしたり、アブラハヤなどの魚を捕まえたりした。ロサニ・フマガインさん(三島)は「すごくきれいな街なのが三島の第一印象。住民みんなで川をきれいにすることが大切なのだと感じた」と話していた。

今後は海水浴や農作業の体験、観光施設の見学、「震災後のネパールを学ぶ」と題したシンポジウムへの参加が予定されている。

シンポジウムは二十四日午後六時〜七時半、三島市一番町の三島商工会議所である。参加無料。問い合わせは、グラウンドワーク三島(電話055(983)0136)へ。(佐久間博康)

NPO招待 環境問題など学ぶ